Q. 外部の専門的知識をどのように生かすとよいでしょうか?

A. 新宿区立四谷第六小学校では、クライシスインテリジェンスという会社と連携し、安全教育・安全指導を行っています。

四谷第六小学校では昨年度からクライシスインテリジェンスの持っているプログラムを取り入れています。６年生は１学期に防犯マップづくりを通して防犯について学びました。２学期にはそれをもとに下のようなプログラムで下級生にワークショップで伝えました。

課題を持つ

６年生が「防犯インストラクター」として下級生に伝えたいことを考える。

- ○危ない目にあった時、どうするか？
- ○危ない目にあった後、どうするか？
- ○危ない目にあわないためには？
- ○危ない目にあいそうな時間や場所は？
- ○不審者ってどんな人？

取り組む

グループごとに分かりやすく伝えるための準備・作業をする。

- ○低学年をいかに守ってあげられるか意識することによって真剣に考える。
- ○学んだことを生かし、さらに学習を深める。

ゲストが説明、担任の先生が板書し、学習が進む。

資料を模造紙で作成するグループ

劇とクイズで伝えようと練習をするグループ

担任の先生の話　子どもたちの防犯に対する意識が高まりました。昨年度の６年生から聞いたことも土台になっているし、何よりも１学期から「自分たちが下級生を守るんだ。」という意識で学習に取り組んでこられたので、深まったのではないかと考えます。

先生やゲストティーチャーがグループに入り支援する。

クライシスインテリジェンス

危機管理について経験・実績の豊富なスタッフをそろえている会社。「危機管理は危機を予測回避するための事前準備がすべてである」と訴える。そして災害対策、犯罪対策、テロ対策の３分野でコンサルティングに取り組んでいる。学校関係としては四谷六小など新宿区立小学校の危機管理委員会に参加し、地域や保護者、専門家などが入り、さらに近隣の学校と連携する新しい形の委員会の設置を進めている。防災・防犯の面からの学校施設点検や安全対策マニュアル作成、先生方の机上訓練等、先生方にも指導している。

発表する

６年生がワークショップで１～５年生に説明。クイズや実際に体験させながら防犯について詳しく説明した。

ピーポ 110 番の家がどこにあるか確かめておいてね。

どんな質問にも、下級生が危険に遭わないように考えて真剣に答える６年生。

参観した保護者や地域の方の話

「子どもと一緒に見ることができたので、家で防犯対策について子どもと話し合いたいです。」

「６年生はよく勉強していました。もっと大人がたくさん見に来て、子どもたちの意見を聞いて、地域ぐるみで防犯について考えられるといいですね。」

下級生の感想

６年生が自分の身を自分で守るための方法を教えてくれました。大声を出して助けを求めること、防犯ブザーを鳴らすこと、ピーポ 110 番の家にかけこむことをです。ピーポ 110 番の家はチェックしておきたいです。

6年生の感想

「下級生に教えて、さらに自分の勉強にもなりました。これからも、もっといろいろなことを知って、下級生に教えてあげたいです。」

「防犯について教えたことを、下級生が危ない目にあったときに実行してもらいたいです。私たちが卒業しても５年生が、また下級生に教えてあげられるといいと思います。」

四谷六小菅野校長先生の話

本校では、「自分の命は自分で守ること」を子どもたちに理解させたいと考えています。そのために学校が危機管理について、より専門的な知識をもったクライシスさんに学ぶ必要がありました。

また６年生の防犯マップづくりは、地域の活動とリンクさせました。

学校独自で何とかなる時代ではありません。専門的な知識や地域をどう生かすかが大事であると考えます。

クライシスインテリジェンス浅利眞さんの話

安全教育は各学校で必ず取り組むべきものです。その中で特に「状況判断力」と「決断力」を子どもに身に付けさせることが必要だと私たちは考えています。子どもたちが「考える力」を付け、危険をどう認識するかが大事だと思います。

画一的に「人を信じるな」と子どもに指導するのではなく、例えばどんな状況で道を聞かれたのか、近くに信頼できる大人がいたら教えても大丈夫だなど、その状況に応じた判断を子ども自身ができるといいと考えています。